

令和6年6月28日発行



五小だより

学校だより 7月号
東久留米市立第五小学校
校長 古矢 美雪

60周年の年の「ふれあい月間」

—谷川俊太郎さんと関連づけて—

校長 古矢 美雪

学校創立60周年記念
7月の「けやすけ」

毎年6月は、ふれあい月間（人権尊重強化月間）です。誰にとっても居場所があれ、居心地のよい学校をめざしている本校は、年間3回のふれあい月間を何よりも大切にしています。校長である私は、ふれあい月間の月の全校朝会の校長講話では、「人権及び生命尊重」について特化した話をするようにしています。

6月の第1週目の全校朝会で、『ともだち』という絵本の読み聞かせをしました。作者は、本校60周年に最も関わりのある、谷川俊太郎さんです。谷川さんは、本校の校歌の歌詞をつくってくださった方です。私が読み聞かせを始めると、そのようなご縁も感じながら、子供たちは、真剣に聞いてくれました。絵本『ともだち』の最後には、以下のような詩が書かれています。

作 谷川 俊太郎

ともだちと てをつないで
ゆうやけを みた
ふたりつきり
うちゆうに うかんでるー
そんな きがした
ともだちと けんかして
うちへ かえった
こころの なかが
どろで いっぱいー
そんな きがした
ともだちも
おんなじ きもちかな

この詩を各学級で再度読み深めて、三年生以上の学年では、発達段階に応じて視写しました。三年生は、視写しやすいように、画用紙に縦の罫線を入れた画用紙を使っていました。四年生・五年生は、罫線がない画用紙に書きました。自分の友達のことを思いながら、丁寧に書いていました。この場面を想像した絵を添えた子供もいました。

低学年は特に一年生は未習のひらがなもあるので、『ののはな』（作：谷川俊太郎さん）の詩をマス目をつけた画用紙に試写しました。

六年生は、この詩を受けて、模倣した詩を一人一人が考えてつくりました。いくつか紹介します。

ともだちと 笑いながら
歩いた
いつもとなりにいる
そんな きがした
ともだちと ロげんかをした
ひとりぼっちになった
そんな きがした
ともだちも
おんなじ きもちかな

ともだちと しばふに座って
桜を見た
しばふの草の
心臓のこ動が聞こえた
そんな きがした
ともだちと 暗い夜
火花をした
暗やみの中
大地にふたりつきり
そんな きがした
ともだちも
おんなじ きもちかな

他にも子供たちの作品は、力作ぞろいでした。普段何げなく接している友達とのかかわりを改めて見つめなおす機会になりました。六年生は月曜日から移動教室です。谷川俊太郎さんの絵本『ともだち』に寄せる思いを受け止めて、さらに素敵な友達関係になるような宿泊行事にしていきたいと思います。